

## 平成22年度人材委員会活動報告（中間報告）

### 1. 会議開催状況

#### (1) 人材委員会小委員会

##### 1) 人材育成事業グループ

(第1回)

日時：平成22年7月21日（水） 14:15～17:00

場所：京都大学東京オフィス会議室1

議題：

- ・ グループの活動について
- ・ 国立大学図書館協会シンポジウムについて
- ・ 海外派遣事業について
- ・ マネジメント・セミナーについて

(第2回)

日時：平成22年9月10日（金） 13:45～17:15

場所：お茶の水女子大学附属図書館会議室

議題：

- ・ 平成22年国立大学図書館協会シンポジウムの実施について
- ・ 海外派遣事業について
- ・ マネジメント・セミナーについて

##### 2) 人事政策デザイングループ

(第1回)

日時：平成22年7月21日（水） 14:15～16:50

場所：京都大学東京オフィス会議室2

議題：

- ・ 平成22年度の事業計画について
- ・ 役割分担について

### 2. 活動成果

#### (1) 第6回国立大学図書館協会マネジメント・セミナー

テーマ：「大学図書館管理職の新たな意識改革」

日時：平成22年6月19日（土） 9:00～12:00

場所：札幌パークホテル 3階パークホールA

受講者数：126名（82機関）

#### (2) 海外派遣の実施

海外派遣者の選考結果に基づき、長期：1件1名、短期：2件3名を派遣することとした。

（選考結果については、第57回総会にて報告済）

### 3. 今後の予定・検討事項

#### (1) 平成22年度国立大学図書館協会シンポジウム

テーマ：大学図書館職員の「強み」と「弱み」：コアコンピテンシーを考える

対象者：国立大学図書館中堅職員

会場等：西日本 平成22年11月19日（金）奈良女子大学

東日本 平成22年12月3日（金）お茶の水女子大学

(2) 人材育成事業グループ検討事項

- ・ 海外派遣事業の実施について
- ・ 国立大学図書館協会マネジメント・セミナーについて

(3) 人事政策デザイングループ検討事項

- ・ 昨年度のアンケート調査結果に基づく「人事政策に係る提言」について

## 第6回国立大学図書館協会マネジメント・セミナー 開催報告書(案)

平成 22 年 7 月 21 日  
人 材 委 員 会

### 1. テーマ

「大学図書館管理職の新たな意識改革」

### 2. 日時

平成 22 年 6 月 19 日(土) 9:00～12:00

### 3. 場所

札幌パークホテル 3階パークホールA (札幌市中央区南 10 条 3 丁目)

### 4. 受講者数

部長級	35 機関	35 名
課長級	91 機関	91 名
合計	(重複を除く) 82 機関	126 名

### 5. プログラム (別紙 1「講演及びオープン・ディスカッション概要」参照)

	司会: 川瀬 正幸 (人材委員会/京都大学附属図書館事務部長)
9:00～ 9:10	開会 挨拶: 藤井 譲治 (人材委員会委員長/京都大学附属図書館長)
9:10～10:20	講演「大学図書館管理職の新たな意識改革:私立大学の視点から」 河田 悌一 (日本私立学校振興・共済事業団理事長、 前関西大学学長)
10:20～10:35	休憩
10:35～12:00	オープン・ディスカッション 「大学図書館管理職の新たな意識改革を目指して」 コーディネーター: 関川 雅彦(筑波大学附属図書館副館長) パネリスト: 河田 悌一、貝田 辰雄、茂出木 理子、木下 聡
12:00	閉会

### 6. 受講者アンケート結果 (別紙 2「アンケート集計結果報告」参照)

回答者: 91 名 (回答率: 72.2%)

## 7. 決算

予算		支出		予算との差異
協会費	250,000 円	マネセミ支出額	415,214 円	△165,214 円

内訳及び前年(第5回)との比較

第5回支出	金額	第6回支出	金額
会場借料(会場使用料)	116,655	会場使用料(サ込)	171,600
附帯設備使用料(プロジェクタ等)	184,800	控室使用料(館長フォーラムと折半、サ込)	8,580
立て看板(館長フォーラムと折半)	6,300	附帯設備使用料(プロジェクタ等)	75,000
		立て看板(館長フォーラムと折半)	11,500
		消費税	13,334
会場費計	307,755	会場費計	280,014
講師旅費 (総会出席者のため、所属機関が負担)	0	講師旅費	84,710
講師謝金(@36,000 円)(辞退)	0	講師謝金	36,000
講師経費計	0	講師経費計	120,710
受講者用飲料 (@200 円×90+@150 円×40)	24,000	受講者用飲料(140 本)	14,490
配付資料印刷費	70,550	配付資料印刷費	0
講師事前打合せ用弁当 (@1,120 円×8)	8,960	講師事前打合せ関係 (5/21 東京にて打合せ済)	0
その他計	103,510	その他計	14,490
合計	411,265	合計	415,214

## 8. 運営スタッフ

人材委員会	東北大学附属図書館 事務部長	片山 俊治
	東北大学附属図書館 情報サービス課長	小陳 左和子
	お茶の水女子大学附属図書館 図書・情報チームリーダー	江川 和子
	大阪教育大学附属図書館 学術情報課長	島 文子
	神戸大学附属図書館 情報管理課長	稲葉 洋子
	香川大学図書館 情報図書グループリーダー	北條 充敏
	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課コンテンツチーム副課長	細川 聖二
総会当番館 (協力)	北海道大学附属図書館 利用支援課課長補佐	吉竹 忍
	北海道大学附属図書館 利用支援課係長(相互利用 担当)	松尾 博朋
	北海道大学附属図書館 管理課係長(図書受入担当)	三橋 修
	北海道大学附属図書館 利用支援課本館閲覧担当	神谷 実
	北海道大学附属図書館 学術システム課システム管理 担当	城 恭子

## 第6回国立大学図書館協会マネジメント・セミナー 講演及びオープン・ディスカッション概要

〔平成 22 年 6 月 19 日（土）9:00～12:00 於 札幌パークホテル 3 階パークホールA〕

## 1. 講演「大学図書館管理職の新たな意識改革:私立大学の視点から」

河田 悌一(日本私立学校振興・共済事業団理事長、前関西大学学長)

私立大学での学長経験及び研究者としての視点から、海外（米国・中国・台湾）の大学や国内の私立大学（関西大学、慶應義塾大学、早稲田大学、國學院大学）の事例及び特徴的な取り組み等について紹介があった。それらを踏まえて、国立大学図書館が直面している様々な課題の解決に向けた次のような指摘や提言があった。1) グローバル化や情報化により大学の環境が大きく変わる中、大学の個性・理念を象徴する存在として大学図書館の必要性・戦略性を明確に打ち出し特色化を図ること、2) 国立大学図書館においても市場化テスト検討の対象となっている状況下、民間への業務委託も含めた業務の合理化が避けられないこと、3) しかし何よりも利用者へのサービスが第一であり図書館は閉鎖的であってはならない。

最後に図書館の重要性は不変的であらねばならないことを、「I cannot live without books」（本なしでは生きられない）という米国議会図書館に掲げられた Thomas Jefferson の言葉を引用して締めくくった。

## 2. オープン・ディスカッション「大学図書館管理職の新たな意識改革を目指して」

コーディネータ: 関川 雅彦(筑波大学附属図書館副館長)

パネリスト: 河田 悌一

貝田 辰雄(茨城大学学術企画部長)

茂出木 理子(東京大学教養学部等図書課長)

木下 聡(京都大学附属図書館総務課長)

最初に各パネリストから管理職・リーダーとしての役割や行動についてのプレゼンテーションがあった。その後、コーディネータの調整のもと、参加者との質疑応答を通して次のような意見交換を行い、参加者にとって管理職としての見識を深めることができた。

(意見の概要)

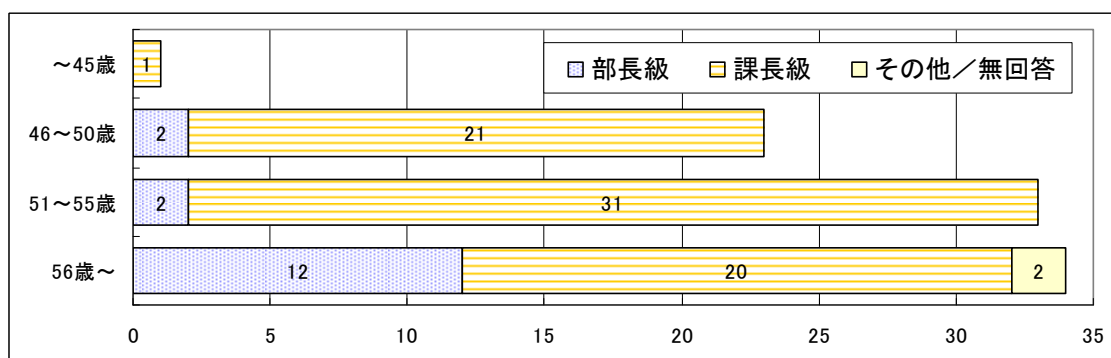
- ・ 図書館経営のイニシアチブを図書館側と経営側のどちら主導で担うべきかについては、大学全体を見渡せる図書館職員が育っていれば前者が望ましいが、現状は必ずしもそうになっていない。
- ・ 図書館におけるアウトソーシングは、組織のスリム化やコスト減が目指すべき目標ではない。ある私大では、アウトソーシングをきっかけにグループ制・チーム制を導入することにより組織・業務体制の柔軟化を図っている。また、アウトソーシングにより、正職員を減らすことは逆効果。やはり大学に対する思いを持った正職員の確保が不可欠。
- ・ 大学を愛する職員を育て、使命感を与えるためには、何より働きがいのある職場にすること。そのためには、経営情報と現場情報をバランスよく集約できる立場である管理職が積極的に情報共有を心がけることで現場の工夫を引き出すことが重要。さらに仕事の成果・評価を職員自身の喜びになるよう仕向けていくことが管理職の役割ではないか。

## 第 6 回国立大学図書館協会マネジメント・セミナー アンケート集計結果

〔平成 22 年 6 月 19 日(土)9:00~12:00 於 札幌パークホテル 3 階「パークホール A」〕

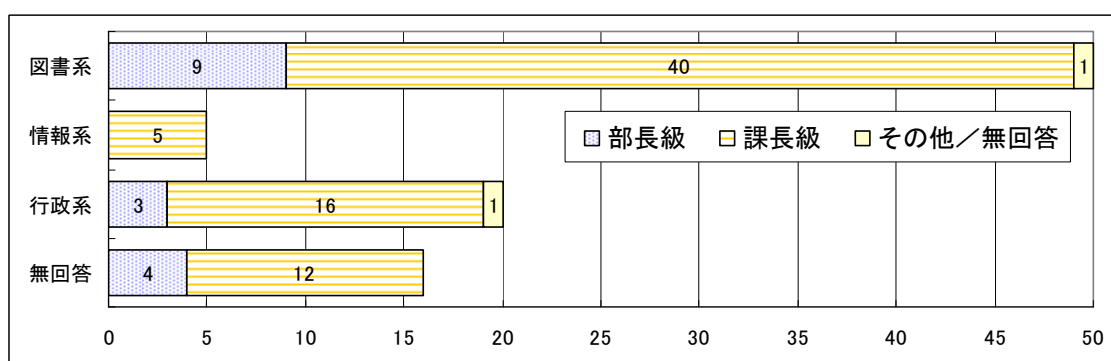
1. 回答数 91 名(受講者 126 名中), 回答率: 72.2%

## 2. 年齢



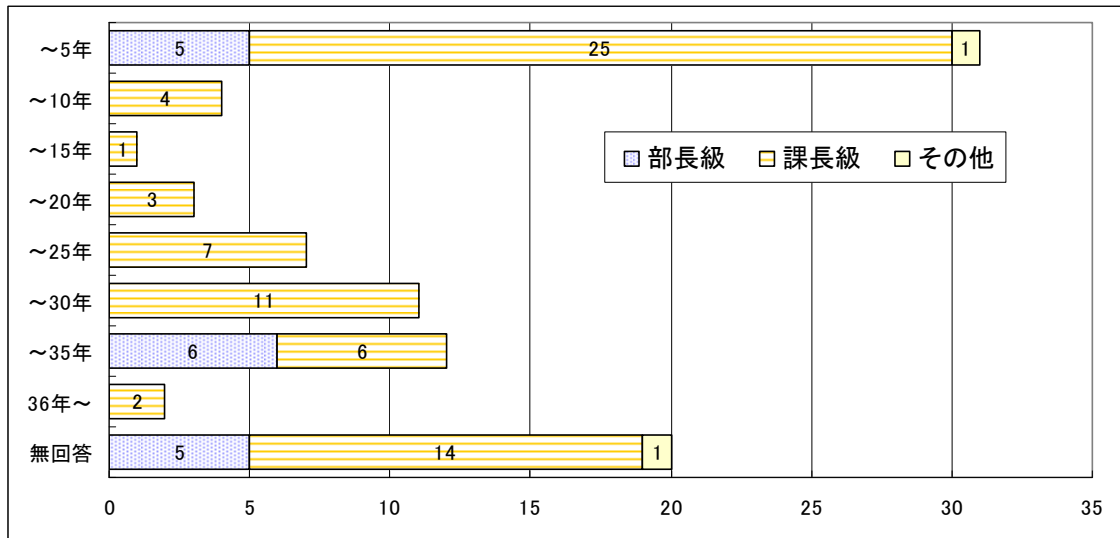
	~45歳	46~50歳	51~55歳	56歳~	合計
部長級相当職	0	2	2	12	16
課長級相当職	1	21	31	20	73
その他/無回答	0	0	0	2	2
合計	1	23	33	34	91

## 3. 職系



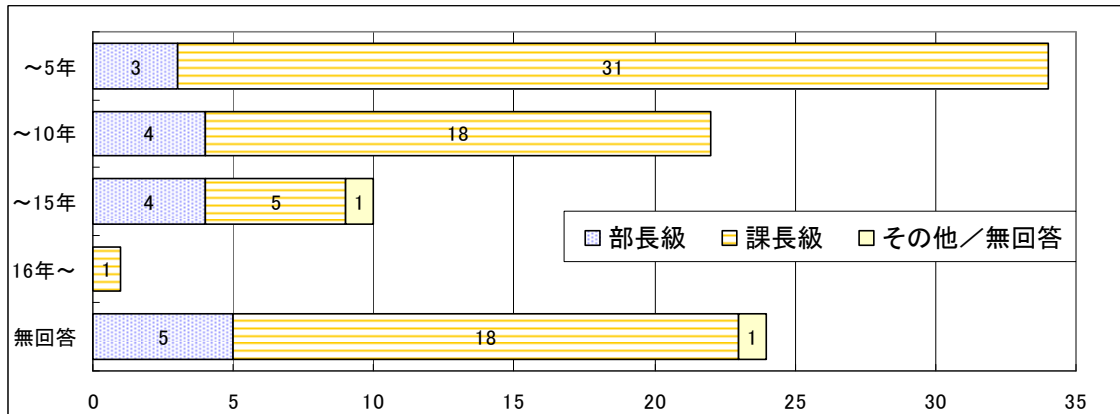
	図書系	情報系	行政系	無回答	合計
部長級相当職	9	0	3	4	16
課長級相当職	40	5	16	12	73
その他/無回答	1	0	1	0	2
合計	50	5	20	16	91

#### 4. 図書館勤務年数



	~5年	~10年	~15年	~20年	~25年	~30年	~35年	36年~	無回答	合計
部長級	5	0	0	0	0	0	6	0	5	16
課長級	25	4	1	3	7	11	6	2	14	73
その他	1	0	0	0	0	0	0		1	2
合計	31	4	1	3	7	11	12	2	20	91

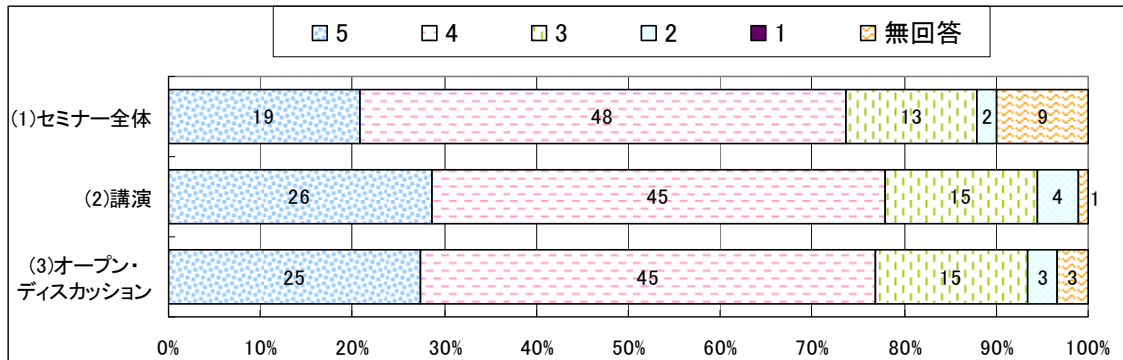
#### 5. 管理職経験年数



	~5年	~10年	~15年	16年~	無回答	総計
部長級相当職	3	4	4	0	5	16
課長級相当職	31	18	5	1	18	73
その他/無回答	0	0	1	0	1	2
合計	34	22	10	1	24	91

※【参考】記名者数 全 16 名(部長級:4/16, 課長級:12/73, その他:0/2)

## I セミナー全体および各題目が参考になったかどうか



	5:たいへん参考になった	4:参考になった	3:ふつう	2:参考に ならなかった	1:全く参考 にならなかった	無回答
(1) セミナー全体	19	48	13	2	0	9
(2) 講演	26	45	15	4	0	1
(3) オープン・ディスカッション	25	45	15	3	0	3
合計	70	138	43	9	0	13

【理由】 ※ [部]:部長級相当職, [課]:課長級相当職, [無]:無回答

### (1) セミナー全体

#### 《5:たいへん参考になった》

- ・とても参考になった。河田先生の豊富な経験を通しての講演。3人のパネリストの管理職としての意識改革の話は、今後の業務に是非生かしたい。[部]
- ・耳の痛い、心にひびく良い事例をきけて、参考になりました。来週からもがんばります。[課]
- ・大変情報を得ることができた[課]
- ・日頃一人で管理職をしていると方向性に疑問を持つことがあります。年に1度ですが、情報提供があり、大変助かりました。[課]

#### 《4:参考になった》

- ・種々の戦術的な事項については参考になったが、今までに想定、想像もしなかった戦略のヒントまではたどりつけなかったため、「5:たいへん…」を選択しませんでした。[部]
- ・河田先生、パネリストの話はとても良かったと思う。発表者が不快感を与えるのは良くない。[部]
- ・図書館実務の経験が少ないので、大変参考になった。[課]
- ・講師、パネリストの方々の個性的な話が聞けたこと。[課]
- ・具体的であった。[課]



- ・ 講演とオープン・ディスカッションのバランスが良かった。ユーモアと余裕があってよい。[課]
- ・ 色々な話が聞けて有意義でした。[課]
- ・ 面白かった、の一言です。[課]

《3:ふつう》

- ・ 個性的な内容であり、新たな部分も見えた。[課]
- ・ 大学の中での図書館の位置づけ、と同時に、一人一人の職員の位置づけ、モチベーションを上げるために汗をかいている管理者層が見えてこなかった。[無]

《2:参考にならなかった》

- ・ 実効性に欠ける、身内の議論ばかり。これまでに国大図協が主体として企画し、実行(実施)し、評価された事業(施策)はあるのか。[課]
- ・ 講演内容と後半のディスカッションのテーマに隔たりがあった。[課]

(2) 講演について

《5:たいへん参考になった》

- ・ 河田講師の講演は国内外のすばらしい図書館を紹介いただき大変参考になった。パネリストの方々の発表も参考になりました。[課]
- ・ 私大の取り組み等の話が大変参考になった[課]

《4:参考になった》

- ・ 私立大学の情報は、大変参考になった。[部]
- ・ 普段なかなか聴くことができない私学管理職経験者のお話は参考になった。[課]
- ・ 河田先生の色が強く出て、よかった。[課]
- ・ 私立大学の多くの事例を知ることができ刺激を受けた。[課]

《3:ふつう》

- ・ はじめの導入のところはもっと簡単でも良いかと思う。[課]

《2:参考にならなかった》

- ・ 講演は殆んどマネジメントの話でなかった。(既知のことばかりだった。)[課]
- ・ 講演は期待外れ。今回のテーマを考えるにあたって有用な情報がほとんどなかった。[課]

(3) オープン・ディスカッション

《5:たいへん参考になった》

- ・ 自分が管理職として注意している事項について、その重要性を再確認できた。[課]
- ・ パネリスト御3人のプレゼンテーションがすばらしかったと思います。内容だけでなくプレゼン自体も。[課]
- ・ パネリスト3者の多様さが面白かった。[課]
- ・ オープン・ディスカッションではパネリストの方から「忌憚のないコメント」が発言され、有意義であったと思う。[課]
- ・ やる気のない、やれない、できない管理職が少しでも自ら考えて自発的に行動をとることに、

#### 《4: 参考になった》

- ・ 現職の部課長のプレゼンも参考になったが、それ以上に学長を経験された河田先生のコメントが非常に参考になった。[部]
- ・ 情報についての考え方について、大変参考になった。[課]
- ・ いろんな考えを聞くことができてためになった[課]
- ・ 各パネリストのお話はとてもよかった。[課]
- ・ それぞれのスタンスが3者3様でおもしろかった。参考になる。[課]
- ・ 私は元々図書系ではなかったけれど図書もみてくれといわれて、これまで京大総務課長の発表であったようなポイント、姿勢で対応してきた。(もちろん無責任管理職を公言してきた訳ではないが。)[課]
- ・ ダメ管理職でもやれる自信が少しついたようです。勉強になりました。[課]

#### 《3: ふつう》

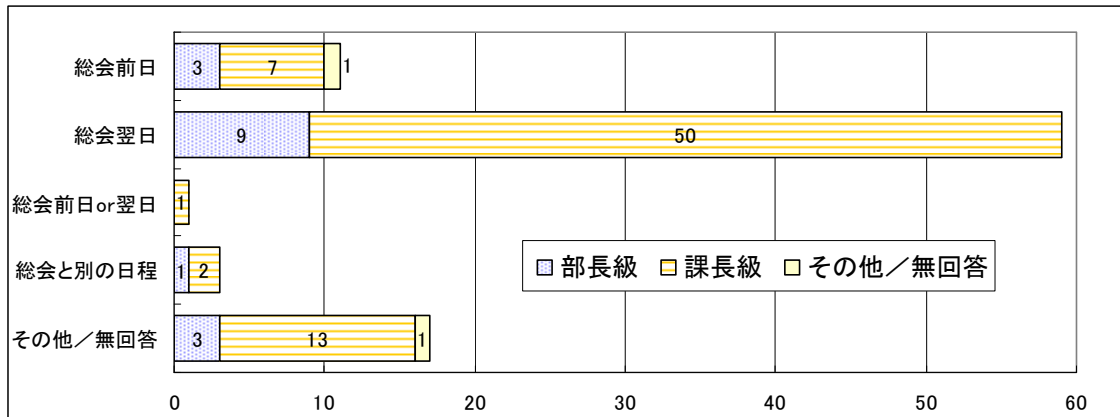
- ・ 総会は久しぶりの参加ですが、図書館員のレジюмеに本からの引用が(それも図書館学以外の本の引用)増えたのは、やっと司書的レポートが出るようになったと思えた。旭山動物園の創意工夫(見せ場)への否定的評価には違和感があった。「風通し」をよくするだけで職場はよくなるか？[課]

#### 《2: 参考にならなかった》

- ・ 参考にならない(河田先生以外)。内輪のマイナーな話で時間が無駄。マネジメント・セミナー自体の開催について廃止方向で検討すべき！[課]

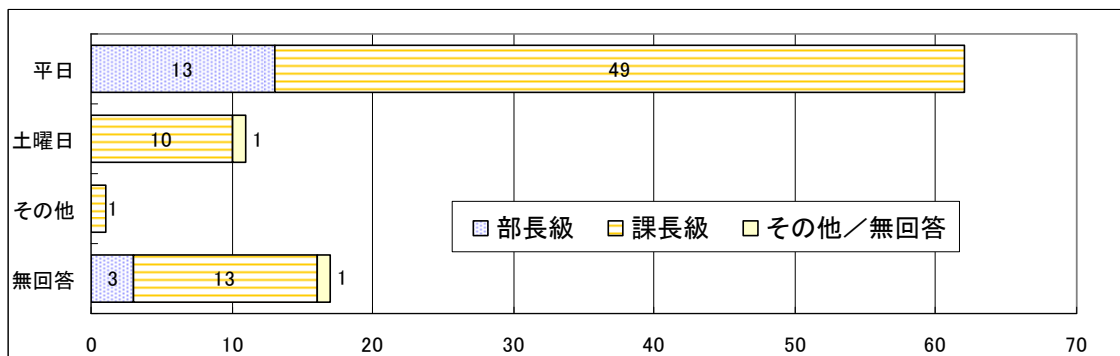
## Ⅱ セミナーの開催時期について(国立大学図書館協会総会との関連)

### (1)開催時期



	総会前日 がよい	総会翌 日がよい	総会前日・翌日 のどちらでも	総会と別の 日程がよい	その他/無 回答	合計
部長級相当職	3	9	0	1	3	16
課長級相当職	7	50	1	2	13	73
その他/無回答	1	0	0	0	1	2
合計	11	59	1	3	17	91

### (2)開催する曜日



	平日	土曜日	その他	無回答	合計
部長級相当職	13	0	0	3	16
課長級相当職	49	10	1	13	73
その他/無回答	0	1	0	1	2
合計	62	11	1	17	91

【理由】

※ [部]:部長級相当職, [課]:課長級相当職

《開催時期:総会の前日がよい》

- ・ 総会自体を活発化させる意味では、マネセミ・館長フォーラムを先に実施していたほうが良いように感じるから。[課]

《開催時期:総会の翌日がよい》

- ・ 遠方から出席する場合も多いので、効率的な開催が良いと思う。[課]

《開催時期:総会とは別に日程を組んだ方がよい》

- ・ 5月頃に。[部]
- ・ 総会出席は各校1名で、セミナーの人数が多すぎるので、分科会を増やす等して、1分科会20～30名で。[課]

《開催時期:無回答》

- ・ 総会と同日が良い。[課]
- ・ 河田先生の講演は理解できる。劣悪な発表は不要！総会に引き続きも開催自体不要だと感じる。[課]
- ・ 仕事なら勤務時間中に行うことが筋。総会のワークショップとセミナーを合体すべき。総会のセレモニーは省略すべき。[課]

《開催曜日:平日》

- ・ 総会の翌日が金曜日を希望します。[部]
- ・ 総会(木曜日)、マネジメント・セミナー(金曜日)[部]
- ・ 休日を避ける方が労働環境上、望ましいと思うので、来年度予定される木金が良いと思う。[部]
- ・ 準備等お世話する人が大変だと思う。[課]
- ・ 土曜日は振替になるため。[課]
- ・ 当番校、地区の運営を考えると平日が良いと思います。[課]
- ・ 振替が取り難い。[課]
- ・ 木・金曜日[課]
- ・ 土曜日は休日です。休みましょう。[課]
- ・ 金曜日[課]

《開催曜日:土曜日》

- ・ 平日出張日が最小限となるため。[課]
- ・ 大学が忙しいので平日はさけてほしい。[無]

Ⅲ 今後のセミナーで希望するテーマ ※ [部]:部長級相当職, [課]:課長級相当職

- 大学以外の私企業のマネジメントについて、話を聞いてみたい。情報発信という観点で TV 局とか新聞社とか。[部]
- 私立大学の図書館運営[部]
- 今回のテーマの第2弾をお願いしたい。[部]
- 私立大学の事例を続けていただきたいです。[課]
- 図書館管理職としての基本的な知識や現下の課題について理解できるような企画を考えてほしい。[部]
- 国立大学における意思決定プロセスについて、重要案件の調整や議論の流れやその方法等について情報交換や意見交換ができればと考える。[部]
- 大学経営陣との学内調整に関するもの[課]
- 市場化テストへの対応[部]
- 市場化テスト[課]
- 市場化テストの結果と今後[課]
- 一般職(図書館業務に関係ない方)からみた図書館職員 良い点、?と思う点等[課]
- 図書館職員の意識改革、図書館職員の専門化[課]
- 図書系職員の大学職員としてのキャリアパス形成[部]
- 図書系職員の他部署との人事交流の実際、事例について[課]
- 図書館マネジメントにおける雇用形態の複雑化と人材育成・専門性[課]
- 職員の高齢化、世代交代に関する組織的な問題[課]
- 人材育成[課]
- コーチング[課]
- 部下とのコミュニケーション[課]
- コミュニケーション、企画力、等[課]
- 窓口職員のあり方[課]
- 情報の専門家 インフォプロについて[課]
- 電子資料のアーカイブ化[課]
- 担当者レベルの話をききたいです。[課]
- 苦労話。[課]

#### IV セミナーの感想、希望、意見等

※ [部]:部長級相当職, [課]:課長級相当職

- ・ 有意義であることは間違いないので、今後も継続してほしい。[部]
- ・ 大学図書館管理職の研修は常に必要であり、なんらかの形で継続すべきであると思う。[部]
- ・ 次回総会から開催しなくても良いのでは？[課]
- ・ マネジメント・セミナーは「総会とセット」の他にももっと設定があつていいと思う。[課]
- ・ 今回のセミナーはとてもすばらしい講師とパネリストを選ばれ、とても参考になった内容であった。事務局に感謝申し上げたい。[部]
- ・ もう少し大学の中での図書館管理職のあり方のお話が聞きたかった。[課]
- ・ 外部の講師に、話していただきたいこと、お聞きしたいことをうまく伝えるのは、とても難しいのだと思う。[課]
- ・ 会員館からの発表は少ない。著名な方の講演ならば開催意義がある。[課]
- ・ 河田先生の海外の図書館の話、特に台湾大学の話が伺えて良かった。[課]
- ・ 図書館の業界で中心を担った方をパネリストにするのは、新たな意識改革を生み出すのにはつらいと思います。いつも同じ人がどこでも講師をするのは良くないと思う。[部]
- ・ 同年代の管理職の工夫・経験からのコメントは非常におもしろかった。[課]
- ・ コーディネーターのさばきが軽妙でよかった。[部]
- ・ 非常に参考になる事例、ご意見を伺うことができました。自信のない課長でも自信が持てそうです。ありがとうございました。[課]
- ・ 3人のパネラー、河田先生の一言ずつが心にしみました。今後の業務を行ううえでのげみにいたします。[課]
- ・ 仮定の質問に答えていただけないのは、残念でした。[課]
- ・ よいアドバイスをいただきました。何ができるか考えます。[課]
- ・ 会場の座席が窮屈。3時間拘束する割には不自由。[課]
- ・ 当番の北海道大学の諸準備に感謝します。[課]
- ・ ありがとうございました。[課]

以上

## 平成22年度国立大学図書館協会シンポジウム実施要項

1. テーマ 大学図書館職員の「強み」と「弱み」：コアコンピテンシーを考える

2. 趣旨

平成22年度から国立大学法人の第2期中期目標期間がスタートし、国立大学に対して一層の経営努力を求める動きがますます強まってきている。また、公共サービスの改革機運の中で、国立大学法人についても公共サービス改革状況に関する調査が実施され、「図書館運営も民間委託すべき業務を切り分けて民間委託すべき」との評価が公表された。これらの調査および評価は、大学図書館関係者に非常に大きな衝撃を与えるものであった。

こうした情勢の下、大学における学術情報基盤の中核的組織として図書館が今後も機能し続けるためには、職員ひとりひとりが、大学図書館職員のコアコンピテンシー（中核となる資質）とは何かを問い直し、行動していかなければならない。

本年度のシンポジウムは、これからの大学図書館を支える中堅職員が、図書館を取り巻く厳しい現状について理解を深めるとともに、自らの「強み」と「弱み」を認識し、課題を共有することを目的とする。

3. 主催及び会場

主催 国立大学図書館協会

後援 国立情報学研究所（予定）

会場 奈良女子大学附属図書館（西日本会場）

お茶の水女子大学附属図書館（東日本会場）

4. 会場及び開催日時

(1) 西日本会場

奈良女子大学 記念館（2階）講堂

平成22年11月19日（金） 13:30～17:15

(2) 東日本会場

お茶の水女子大学共通講義棟2号館（2階）201教室（大教室）

平成22年12月3日（金） 13:30～17:15

\*いずれの会場も、終了後に懇親会を予定しています。

5. 参加資格及び定員

国立大学図書館協会会員館に所属する、図書館実務経験5年～15年程度の若手及び中堅職員を想定していますが、その他の方（会員館以外に所属する職員を含む）も参加可能です。

各会場 50名程度（予定）

6. 参加申込

(1) 参加希望者は、東・西いずれかの会場を希望することができます。

参加希望者が各会場で予定定員を超えた場合は、調整することがあります。

(2) 参加希望者は、電子メールにて次の要領で「参加申込」をしてください。

申込先 京都大学附属図書館総務課（人材委員会事務局）

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

E-mail sympo2010 [at] kulib.kyoto-u.ac.jp（参加申込先）

メールアドレスの[at]は、@に置き換えてください。

電話 075-753-2613 Fax 075-753-2629

申込期限 西日本会場（奈良女子大学）平成22年11月5日（金）

東日本会場（お茶の水女子大学）平成22年11月22日（月）

申込内容 電子メールの件名を「国大図協シンポジウム参加申込」とし、本文に以下の内容を明記してください。

- ・氏名（ふりがな）
- ・所属・職名等
- ・連絡先メールアドレス
- ・懇親会参加の有無

\*なお、開催当日に連絡等がある場合は各会場の下記担当へ連絡をしてください。

西日本会場 奈良女子大学図書課情報管理係 0742-20-3320

東日本会場 お茶の水女子大学附属図書館総務係 03-5978-5836

## 7. プログラム

別紙「平成22年度国立大学図書館協会シンポジウム『大学図書館職員の「強み」と「弱み」』」のとおり

## 8. その他

(1) 参加に要する旅費等は、参加者の所属する大学等の負担となります。

(2) 参加可能な場合の通知はいたしません。希望者多数の場合、参加不可の方に対してのみ連絡いたします。

(3) 懇親会費は4,000円程度を予定しています。懇親会費は当日申し受けます。

(4) アクセスについて

西日本会場 奈良女子大学／アクセス・マップ

<http://www.nara-wu.ac.jp/accessmap.html>

東日本会場 お茶の水女子大学／アクセス・マップ

<http://www.ocha.ac.jp/access/index.html>



## 平成22年度国立大学図書館協会シンポジウム

### 大学図書館職員の「強み」と「弱み」:コアコンピテンシーを考える

---

<プログラム> 東西会場とも同じ 参加無料

※受付は13 時00 分からはじめます。

13 時30 分 開会

13 時40 分 講演1 大学図書館を対象とした公共サービス改革に係る一連の動き (仮題)

木村 優 (東京大学附属図書館総務課長)

13 時55 分 講演2 法に基づく公共サービス改革 (市場化テスト) の実情 (仮題)

井村 進 (日本貿易振興機構アジア経済研究所図書館長)

14 時40 分 講演3 大学図書館の専門的業務と職員の専門性 (仮題)

呑海さおり (筑波大学図書館情報メディア研究科助教)

16 時00 分 オープンディスカッション

コーディネーター 岡部 幸祐 (金沢大学情報部情報サービス課長)

コメンテーター 井村 進, 呑海さおり, 木村 優

17 時15 分 閉会

※終了後、懇親会を開催します。

---

<西日本会場> 申込み期限 11月5日(金)

奈良女子大学 記念館 (2階) 講堂

平成22年11月19日(金) 13:30 ~ 17:15

<東日本会場> 申込み期限 11月22日(月)

お茶の水女子大学共通講義棟2号館 (2階) 201教室 (大教室)

平成22年12月3日(金) 13:30 ~ 17:15

---

<問合せ先・申込み先>

京都大学附属図書館総務課 (人材委員会事務局)

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

E-mail sympo2010 [at] kulib.kyoto-u.ac.jp (参加申込先)

メールアドレスの[at]は、@に置き換えてください。

電話 075-753-2613 Fax 075-753-2629

---

<開催当日の連絡先>

西日本会場 奈良女子大学図書課情報管理係 0742-20-3320

東日本会場 お茶の水女子大学附属図書館総務係 03-5978-5836

---

主催 国立大学図書館協会

後援 国立情報学研究所 (予定)